

表紙

タイトル

青少年（7歳-16歳）の若年ギャングへの関与を予防するための機会提供

レビューワ

Fisher H, Montgomery P, Gardner FEM

日程

編集日：2008年2月21日

内容の最終的な更新を行った日：2008年2月20日

最終的な微修正を行った日：2008年2月20日

次の段階が期待される日 2010年1月1日

プロトコルの初公開：1版 2007年

レビューの初公開：2版 2008年

レビューワの連絡先

Dr Paul Montgomery
University Lecturer
The Centre for Evidence-Based Intervention
University of Oxford
Barnett House
32 Wellington Square
Oxford
UK
OX1 2ER
Telephone 1: +44 1865 280 325
Facsimile: +44 1865 270 324
E-mail: paul.montgomery@socres.ox.ac.uk
URL: <http://www.spsw.ox.ac.uk/cebi>

レビューワの分担

Herrick Fisher: 最初の発案、プロトコル、検索、試験の選択、報告書作成.
Paul Montgomery: プロトコルのデザイン、データ管理とデータ統合、編集.
Frances Gardner: プロトコルのデザイン、試験の選択、編集

内部支援元

Centre for Evidence Based Intervention, University of Oxford., UK

外部支援元

The Nordic Campbell Center, DENMARK

出版ノート

このレビューは、キャンベル・コラボレーションとコクラン・コラボレーションの両方に登録される。

レビュー本文

要旨

ギャングの一員になる若者は、ギャングではない若者やギャングではないものの非行少年である若者に比べ、非行や犯罪、特に重大で暴力を伴う違法行為に関与する傾向が強いことが、研究によって示されてきた。機会提供（opportunity provision）は、アノミー理論や緊張理論を土台とし、教育機会や雇用機会を若者に与えることでギャングへの関与が減るだろうという考えに基づき、ギャングへの関与を予防するために広く用いられている方策である。

この系統的レビューでは、ギャング予防を目的とする機会提供の効果に関するランダム化比較試験も準ランダム化比較試験も見つけることは出来なかった。現行のプログラムへの資金拠出の正当性を示し、将来行われる介入の指針とするために、ギャング予防と介入プログラムの厳密な一次評価研究が喫緊に必要である。

概要

背景

若年ギャングは、アメリカ合衆国において長く研究が行われており、他国でもその関心は高まっている。多くの研究は、ギャングへの加入と非行の深化との間に頑健で一貫した関係があることを示している。アノミー理論と緊張理論から導出された、ギャングへの関与についての理論の一つによれば、ギャングは、合法的な労働市場から排除された若者の経済的必要を満たす手段を提供している。機会提供は、この理論や、教育の機会と雇用の機会を得た若者はギャングに関与することが少なくなるものだという論理に基づくギャング予防策である。機会提供として広く用いられている方法には、家庭教師、補習教育、職業訓練、就職あっせんなどがある。

目的

青少年（7歳から16歳）がギャングに関与するのを予防するために行われる機会提供の効果の有無を評価すること。

検索の方策

電子検索として、2007年春までのASSIA, CINAHL, CJA, Cochrane Library, Dissertations Abstracts, EMBASE, ERIC, IBSS, LILACs, LexisNexis, MEDLINE, NCJR Service Abstracts Database, PsycINFO, Sociological Abstractsの検索を行った。レビューワは、関連する組織、個人、メーリング・リストに当たり、関連するウェブサイトや参考文献一覧を探した。

選択基準

ギャングに関与していない7歳から16歳の青少年に対して、主たる介入として機会提供を行った介入を、別の介入と比較、あるいは無介入と比較した、全てのランダム化比較試験および準ランダム化比較試験。

データ収集およびデータ分析

検索によって2,696件の重複しない抜粋文が得られた。そのうち2,676件は、タイトルおよびアブストラクトから判断して除外し、2件は研究著者との話し合いの上、除外した。結局、18件の抜粋文について、論文全文を取り寄せた。その18件のうち16件は、評価研究ではない、ギャング予防プログラムを扱っていない、ギャングに関するアウトカム尺度を含んでいない、機会提供の介入要素を含んでいない、他の抜粋文で報告されていた予備調査結果を示しただけ、といった理由により除外した。最終的に残った2件の論文は、ギャング予防のための機会提供と少なくとも部分的には関連していたが、方法論的な欠陥によりいずれも分析からは除外した。

主たる結果

ランダム化比較試験も準ランダム化比較試験も見つからなかった。

レビューによる結論

ギャング予防のための機会提供の効果に関するランダム化比較試験ないし準ランダム化比較試験は、現段階では無かった。ギャング予防策として機会提供を扱っている研究が2件だけあったが、ケース・スタディと質的研究であり、いずれも方法論上の制約が大きく、結果を機会提供の影響だろうと推測的に結論づけることすら不可能だった。

この研究領域を発展させるため、また、現行の介入への資金拠出を正当化するため、さらには将来のギャング予防プログラムや政策の指針とするためにも、ギャング予防策の厳密な一次評価研究が不可欠である。

背景

若年ギャングの定義

異論を挟まずに受け入れられる若年ギャングの定義が無いのは、若年ギャングの普遍的なモデルが無いという事実を反映している。ただし、普通は、いくつかの特徴によって、若年ギャングと他の若者の集団や組織犯罪集団を区別できる。それは主に、犯罪活動への関与（普通は多様な犯罪行為の実行）、それと、ネーミング、シンボル、色、あるいは物理的経済的テリトリーとの関係を介した共有するアイデンティティの投影である（[Huff 1993](#); [Spergel 1993](#); [Spergel 1994](#); [Howell 1998](#); [Esbensen 2000](#); [White 2002](#); [OJJDP 2004](#); [Carlsson 2005](#)）。若年ギャングの定義のほとんどは、これら二つの特徴に何らかの形で言及しているが、地域によって異なる固有の特徴やギャングの組織構造を含んでいることも多い。アメリカでもその他の国でも、たいていのギャング構成員は青年であり、11歳から15歳の間にギャングに動員され、犯罪への関与の増加がピークになる（[Kodluboy 1993](#); [Huff 1998](#); [Hill 2001](#); [OJJDP 2004](#)）。また、民族的・人種的マイノリティ以外のギャングメンバーの割合や、女のギャングメンバーの割合は、地域の類型によって、また自己申告データか法執行機関で得られたデータかによって相当変動があるが、ほとんどは、民族的・人種的マイノリティ、主にヒスパニックと黒人（アフリカ系アメリカ人）であり、大多数は男である（[Moore 1998](#); [Moore 1999](#); [Egley 2000](#); [Egley 2006](#); [Snyder 2006](#)）。

本レビューで使用する定義は、Eurogang Program of ResearchとOffice of Juvenile Justice and

Delinquency Prevention (OJJDP 2004)の定義に基づき、一般的なギャングの特性を踏まえつつ、上述のようなギャングの多様性とギャングの定義の多様性の取り込みを図った。よって、プリズンギャング、イデオロギー的ギャング、ヘイトギャング、モーターサイクルギャングを除く (Huff 1993; Howell 1998)、「違法行為への関与がグループのアイデンティティの一部となっている、持続的な、ストリート志向の若年ギャング」(Esbensen 2005)と定義する。

若年ギャングへの加入と関連して増加する非行

ギャングのメンバーたちは、ギャングでない若者やギャングには加入していない非行青少年と比べて、不釣り合いなほど多く犯罪、特に重大な暴力犯罪に関与している (Thornberry 1997; Battin 1998; Howell 1998; Hill 1999; Hill 2001; OJJDP 2004)。この突出した非行性は、違法行為の数、重大犯罪・暴力犯罪への関与率、表面化していない非行の補正頻度によって測定を行っても常に一貫している (Spergel 1994; Howell 1998; Huff 1998; Esbensen 2000; Hill 2001)。研究によって、ギャングへの加入そのものに、非行友人を持つことや過去の非行行為への関与の影響以上に、犯罪を引き起こす影響力があることが示されているが (Battin 1998)、それはつまり、ギャングには、非行性を高める社会的単位 (social unit) としての一面がありそうだということを意味する。このことは、ギャングによる犯罪の規模に関する政策課題と併せて、ギャング予防とギャングが生み出すアウトカムそのものが、それらを独自に扱う研究を行う正当な理由になるということの意味している。

若年ギャングの各国の有病率

若年ギャング研究のほとんどはアメリカで実施されているが、そのアメリカでは、活動が行われているギャングの数が1990年代半ばに全国で30,000グループ、840,000人のピークに達した (Moore 1998, Snyder 2006)。直近のデータでは、アメリカ全国でおよそ24,000のギャングがあり、760,000人のギャングメンバーが活動していると推計されている (Snyder 2006)。

国際的には、ギャングに関する研究は端緒を開いたばかりだが、ストリートギャングあるいは時に「迷惑な若者集団」(troublesome youth group) と呼ばれる集団 (Decker 2005) が、南アメリカ、ヨーロッパ、アジア、アフリカの先進国でも発展途上国でも特定されてきている (Carlsson 2005, Covey 2003, Decker 2005, Klein 2006, Papachristos 2005)。過去に実施された予備的調査では、これらの国のうちの数カ国の若年ギャングの性質、出現パターン、行動が、より広範に研究されているアメリカのストリートギャングのそれと酷似していると結論づけている (Klein 1995)。

ギャング形成の一理論：合法的機会システムからの排除

なぜ若者がギャングに係わりを持つようになるのかということに関しては、個人の危険因子と保護因子を強調する理論や認知メカニズムを強調する理論、他方、社会解体理論や、社会統制理論、緊張理論から導出されるよりマクロな視点から見た理論など、幅広い理論がある。後者のマクロ理論のうちの一つは、ギャングが合法的な労働市場から排除された若者の経済的必要を満たす手段を提供していると指摘している。この理論は、社会的に隔離・排除された状況の中で育った「アンダークラスの」若者が特にギャングに引きずり込まれる傾向にあり、合法的機会システムが彼らに閉ざされている時に、地位や成功を得る代替手段として非行に関与するという知見によって支持される (Goldstein 1993; Huff 1993; Howell 1998; Stinchcomb 2002)。加えて、工業労働の目減り、中流階級の黒人の人口流出、学校がインナーシティの学生に市場経済の世界に入っていくための準備をさせることがますますできなくなっていること、雇用機会の減少、社会的な機会の不足といった、合法的な労働市場へのアクセスが制限されていることを意味する複数のコミュニティ構造的要因が、ギャングの活動や発生の可能性の高まりと関連している (Klein 1995; Stinchcomb 2002)。若年ギャングへの関与の危険因子として特定されているものには、学業達成

の低さ、教育への不満、貧困生活、経済的・社会的機会への障壁がある（Howell 1998; Maxson 1998; Hill 1999; OJJDP 2004）。

機会提供によるギャング予防プログラム

機会提供は、若者がギャングに関与する理由を説明した上記の理論から導き出されたギャング予防策であり、多様な発達段階で、その時々に関係する教育機会や雇用機会を提供することで、若者がギャングに加わる必要性や動機が小さくなるだろうという仮定に基づいている（Spergel 1997）。したがって機会の提供には、家庭教師、補習授業、職業訓練・準備、雇用促進、就職あっせん、その他、経済的機会や教育機会を増やす、あるいは若者がそれらの機会を上手く活かせるように設計されたプログラムなどがある（Goldstein 1993, Spergel 1991, Spergel 1993）。

1960年代から70年代には、現役のギャングメンバーに対する介入策として普及していた機会提供だが、若者がギャングに加入するのを予防するために設計されたプログラムとしても用いられてきた。北部カリフォルニアのBay Area Youth Employment Project (BAYE)は、機会提供による予防プログラムの一例である。具体的には、危険因子を抱える若者に対し、隔週で仕事と大学でのワークショップを提供しており、大学キャンパス内で就職あっせんも行っている（Corsica 1993）。機会提供によるギャング予防プログラムの中には、職業訓練や就職あっせんと併せて、別のサービスを提供するプログラムもある。例えば、ニューヨーク市のYouthBuild/YAPは、建築技術を教え、賃金が支払われる建築の仕事を用意し、就職あっせんサービスを提供し、ピア・カウンセリングや認知技能の開発トレーニングも提供している（Corsica 1993）。

ギャング予防のための機会提供の可能性

National Youth Gang Suppression and Intervention ProgramとOffice of Juvenile Justice and Delinquency Prevention (OJJDP 2004)が、1998年にアメリカにおけるギャング介入の普及に関するサーベイを行い、抑圧、社会的介入、組織の変更と開発、あるいはコミュニティを組織結成し動員するという介入策に比べ、機会の提供は、慢性的にギャング問題を抱える都市において、最高水準の「目に見える総合効果」（perceived general effectiveness）につながっていることが明らかになった（Spergel 1990, Spergel 1993）。「目に見える総合効果」という尺度は、この研究のために研究著者らが考案したものであり、潜在的バイアスを考慮に入れてはいたが、事後の妥当性の検証では、ギャング活動についての5つの指標と有意な相関があった（Spergel 1993）。

諸研究により、機会提供の取り組みには効果がありそうだということも示されている。例えば、1996年に実施された元ギャングメンバーと現役のギャングメンバーに対するサーベイでは、49.1%の回答者が、職業訓練と雇用プログラムがギャングへの加入を予防するのに効果があったと感じており、75%の回答者が、「職業訓練は時間の無駄である」という考えには同意しておらず、また、若者をギャングから遠ざけておくためには、雇用サービスが一番だとする回答者が最も多かった（39.4%）（Corsica 1993; Houston 1996）。

若者の発達段階とギャングへの関与に関する研究は、機会提供の効果が最大になる可能性があるのは、およそ7歳から16歳までの後期少年期と初期青年期の間だろうとしている。この年齢は、若い人たちに対する親の監督が少なくなり、彼らの社会での自立性が高まり、友人グループの影響がますます重要になる時期である（Dishion 1999）。また、若年ギャングに関与し始めることの多い時期でもあり、予防プログラムへの反応が最も大きな時期でもあろう（OJJDP 2004, Connor 2002, Hill 2001, Huff 1998, Kodluboy 1993）。

ギャング予防プログラムについての論説をまとめたものが、この15年出てきているが、若年ギャングへの関与を予防する目的で行われる機会提供の有効性が体系的に評価されたことはこれまでなかった。本レビューは、実務家と政策決定者が自分たちの地域社会の若年ギャングに対し、エビデンスに基づく予防的介入が構築できるように、ギャング予防研究の根底にあるこの重要な

ギャップを埋めようとするものである。

目的

青少年（7歳から16歳）が若年ギャングへ関与するのを予防するための機会提供プログラムの効果を評価すること。

本レビューで考察する研究の基準

研究種別

無作為割付あるいは準無作為割付（例えば、アルファベット順や交互順、曜日順）によって群への割付を行っている研究は、レビューの対象となる資格がある。

研究参加者の類型

ギャングに関与していない7歳から16歳の青少年

介入の種類

「背景」の節で定義した機会提供。

機会提供が、レクリエーション介入や認知行動的介入など、他の介入と組み合わせたプログラムである場合には、機会提供がその中で主たる介入である場合のみ、つまり、介入の頻度と期間をレビューワ2人（HFとPM）がそれぞれ独自に判断して、全プログラム構成の50%以上であった場合のみ対象とする。レビューワ2人の間に食い違いがある、あるいは、レビューワのいずれかが、他の介入の割合が40%から60%だったと推定した場合には、追加情報を得るために研究著者と接触を持つ。

プログラムに機会提供が含まれるものの、主たる介入としては認知行動的介入がとられているといった、複数の介入が行われているプログラムは本レビューから除外し、別のレビュー（青少年（7歳から16歳）が若年ギャングへ関与するのを予防するための認知行動的介入：

Cognitive-behavioural interventions for preventing youth gang involvement for children and young people (7-16)) の対象とすることを考える。

別の何らかの介入がプログラムの主たる部分を構成している研究は除外した。

機会提供との主な統制比較対象は、「無介入」であった。ギャングや非行予防用として明確に設計された他の介入や、統制群に対して行われた別の社会奉仕や支援的介入との比較は、取り上げたが、議論は分けておこなった。

アウトカム尺度の種類

対象とした第一アウトカム：

- 1) ギャングへの加入状況（二値変数）
- 2) 殺人、暴行、強盗、侵入盗、麻薬取引など、ギャングと関係性のある非行行動および犯罪行為（逮捕などの客観的尺度と、自己申告などの主観的尺度が利用可能）。

対象とした第二アウトカム：

- 1) アウトカム測定時に16歳以上の人の就職状況
- 2) 学校が報告した無断欠席
- 3) アウトカム測定時に18歳以下の人の学校での基準点の達成
- 4) ギャングとしての活動時間以外での非行・犯罪。あるいはギャングに関与していない一個人による非行・犯罪
- 5) 非行友人との関係（二値変数、非行友人と過ごす時間の割合、あるいは非行少年と認定できる友人の割合といった友人非行尺度によって測定）
- 6) 違法薬物中毒についての客観的尺度と主観的尺度
- 7) a) ギャングに関係する活動、あるいは b) 自己申告や病院の記録によって判断される非行活動に起因する入院や負傷
- 8) 銃器所持（有罪判決の記録および自己申告）

これらのアウトカムの測定に用いる道具は、自己申告、あるいは学校・警察・プロベーション・裁判所データなどの公的な記録である。自己申告によるアウトカム尺度と自己申告以外のアウトカム尺度には食い違いがあるかもしれないため、可能な場合には別々に分析を行うが、信頼性による順位付けはしない（[Dishion 2005](#)）。

利用可能であれば、National Evaluation of GREAT Student Questionnaire（[Esbensen 1999](#)）内の尺度のような、問題行動や関連する構成概念についての行動や態度の尺度も対象にする。

アウトカムは、量的な形で報告されてなければならない、実験群および統制群両方のエンドポイント（介入後）データを含まなければならない。

アウトカムの測定間隔

アウトカムは、データが利用可能ならば、介入効果の持続性を評価するために、介入後、6ヶ月までの短期フォローアップ期間後、18ヶ月までの中期フォローアップ期間後、5年までの長期フォローアップ期間後を、それぞれ測定する。

研究を見つけるための検索方策

関連する全ての文献を入手できる可能性を最大にするために、3通りの検索方策を取った。

I. 電子検索

公表された研究と公表されていない研究をデータベースから検索した。ほとんどのデータベースは英語で検索を行ったが、検索で得られる結果に言語の制限はかけなかった。テストで行った検索により、方法論に基づくフィルターをかけると関連する研究が除外されてしまうことが示されたため、フィルターはかけなかった。より制限の多い検索方策（関連性の無い論文を、しかも少ししか識別できない検索）よりも、極めて感度の高い検索方策（関連する報告書が全て該当しやすい検索）を用いた。

以下のデータベースを電子検索した。

The Cochrane Library (Issue 2, 2007年)

MEDLINE (1950年~ April Week 3 2007年)
ASSIA (1987年~ April 2007年)
CINAHL (1982年~ April Week 4 2007年)
Criminal Justice Abstracts (1968年~ November 2007年)
Dissertation Abstracts (1861年~ April 2007年)
EMBASE (1980年~ 2007年Week 17)
ERIC (1966年~ May 2007年)
International Bibliography of Social Sciences (IBSS)(1951年~ April Week 04 2007年)
LexisNexis Butterworth Services (~ April 2007年)
LILACS (~ April 2007年)
National Criminal Justice Reference Service (~ October 2007年)
PsycINFO (1806年~ April Week 1 2007年)
Sociological Abstracts (初号 ~ 2007年)

Cochrane Library (The Cochrane Database of Systematic Reviews, Database of Abstracts of Reviews of Effects, The Cochrane Central Register of Controlled Trials, The Cochrane Methodology Register, Health Technology Assessment Database, NHS Economic Evaluation Database, and About The Cochrane Collaboration)で用いた検索方策は以下の通り。

```
[(MeSH descriptor Adolescent explode all trees) OR (youth OR adolescen* OR juvenile OR child OR schoolchild OR boy OR girl OR teen OR (young person*) OR (young people*))]:ti,ab,kw]
AND
[(MeSH descriptor Juvenile Delinquency explode all trees) OR (gang OR delinquen* OR devian* OR (anti NEXT social) OR (youth* NEAR group)):ti,ab,kw] AND [(MeSH descriptor Remedial Teaching explode all trees) OR (MeSH descriptor Vocational Guidance explode all trees) OR (MeSH descriptor Education, Nonprofessional explode all trees) OR ((opportunity NEAR/3 (provi* OR enhanc*)) OR ((remedial OR supplementary) NEAR/3 (teaching OR education)) OR tutor* OR (vocational NEAR/3 (training OR therapy OR education)) OR ((job OR work OR occupation*) NEAR/3 (training OR placement)) OR (work NEAR/3 experience) OR (industr* NEAR/3 training) OR (apprenticeship)):ti,ab,kw]
```

用語は、他の全てのデータベースについて必要に応じて修正している。以下の付録を参照されたい。付表01、付表02、付表03、付表04、付表05、付表06、付表07、付表08、付表09、付表10、付表11。

II. 個人的な接触

該当する政府省庁、非政府組織、非営利団体、権利擁護団体、ユーザー・グループ、この分野の専門家と接触した。さらに、非行予防やギャングに特化したメーリング・リスト (list-servs) 宛てに、関連研究を見つける助力になってくれるよう求めるメールを送付した。

第一レビューワは、現在行われている研究や未公開の研究についての詳細を聞くために、対象に含めた全ての研究と除外した全ての研究の著者と接触をとった。

III. 手作業による探索

一般ユーザー、政府、その他の機関、学術機関などによって作成された関連するウェブサイト、それと先行レビューと除外した全ての研究から得た参考文献のリストを第一レビューワが探索した。

レビューの方法

包含基準に合う研究が無かったので、プロトコルで計画した、将来の更新のために記録しておいたレビュー方法の全てについては、付表14を参照のこと。

研究の記述

試験の選考方略

検索方策によって、2,696件の重複の無い抜粋文が得られた。HFとPMは、タイトルとアブストラクトを見て関連性をチェックし、2,676件は明らかに無関係であるとして除外した。2件は、関連する可能性があったが、研究著者と直接連絡をとった結果、いずれも分析から除外されることが分かった。1件はアウトカムを個人レベルで測定しておらず、もう1件はギャング予防プログラムで機会提供の要素を扱っていなかったためである。残りの18件の抜粋文は、レビューのうち一方あるいは両者ともが関連しているかもしれないと考え、文章全文を入手した。対象となりうるか判断するため、入手したこれらの文献を両レビューが調べたが、16件は明らかに無関係であるとして除外した。理由としては、プログラムを記述しただけのものや評価研究ではない論評であったため（n=5件）、ギャング予防プログラムを扱っていないため（n=5件）、ギャングに関係するアウトカムを含んでいなかったため（n=4件）、機会提供の要素を持つギャング予防プログラムを扱っていなかったため（n=1件）、別の抜粋文で報告されていたアウトカムの予備調査結果が示されていただけであったため（n=1件）だった。

残りの2件の文献は、包含基準について評価を行ったが、いずれも無作為化研究あるいは準無作為化研究とは言えず、両方とも分析から除外した。両研究の方法論や知見については、「除外した研究の表」で示し、「研究の記述」で論じている。

結局、対象となる研究は一つも無かった。

研究を対象として含めるか除外するかに関して、レビュー間に食い違いは無かった。ただし、もし包摂するかどうか初めに食い違いがあった場合、追加情報によってその食い違いを解消できるなら、研究著者らに接触することになっていたし、レビュー間で合意に達しなければ、CDPLPGのReview Group Coordinatorに意見を求めることになっていた。

以上の選考過程をフローチャートにしたものを、QUORUMの文章（[Moher 1999](#)）をつけて作成した（図01を見よ）。

除外した研究

2件の研究について、機会提供の要素を含むギャング予防プログラムを扱っていると確認されたが（[Simun 1996](#); [Weisfeld 1982](#)）、いずれも除外した（「除外した研究の表」を見よ）。一方（[Simun 1996](#)）は、高リスクの学生に対する包括的なギャング・薬物予防プログラムのケース・スタディであり、機会提供（個別指導とコンピュータ実験室での指導）は、9つの様々な介入策のうちの一つだった。この研究を分析から除外した主な理由は、比較群が無く、条件への無作為割付が不可能であり、サンプルの成熟や社会の犯罪水準の変化のような介入以外の要因がアウトカム尺度に与える潜在的影響を評価できないためである。さらに、強度や期間に鑑みて、機会提供が主たる介入ではなかった。もう一方の研究（[Weisfeld 1982](#)）は、一人の研究参加者へのインタビューを報告する質的研究だった（その参加者は元ストリートギャングのリーダーで、まあまあ成功したビジネスマンになっていた）。質的研究であるため、自動的に分析から除外した。また、報告結果を支持するデータが提示されておらず、データ収集および分析方法の議論もなく、研究参加者と著者の以前の関係から生じる影響に関する相互作用性（reflexivity）もないなど、信頼性と妥

当性を著しく制限する複数の方法論上の制約もあった。

包含した研究の方法論の質

包含基準を満たす無作為化比較試験も準無作為化比較試験も見つからなかった。

結果

包含基準を満たす無作為化比較試験も準無作為化比較試験も見つからなかった。

討論

本レビューでは、若年ギャングへの関与を予防するための機会提供の有効性あるいは無効性に関する無作為化比較試験あるいは準無作為化比較試験から得られるエビデンスを見つけられなかった。除外した二つの研究は機会提供をある程度取り扱ってはいた。一方は、高リスクの学生に対する機会提供の要素を含む複数の要素から成るギャング予防プログラムのケース・スタディで、もう一方は、元ストリートギャングのリーダーへのインタビューを扱った質的研究だった。しかし、これらの研究には実質的な方法論上の欠陥があり、機会提供が、ギャングへの関与、あるいは何らかの二次的アウトカム尺度を予防するのに影響している可能性があるという推測的な結論ですら支持できるものではない。したがって、この系統的レビューから得られる唯一の知見は、ギャング予防のための機会提供に関する厳密な一次研究が欠如している、ということだけである。

レビューワによる結論

実務のためのインプリケーション

無作為化比較試験、準無作為化比較試験、あるいは入手可能な全ての文献のうち本レビューの極めて感度の高い検索によって見つかったものの最終的には除外された研究で得られるエビデンスが完全に欠如しているため、将来の介入と政策努力について実務家に助言することは非常に難しい。結論として言えることは、ギャング予防のための機会提供に関する良質の一次研究が緊急に必要であるということだけである。結果的に、実務家に対して唯一、提言できるとすれば、機会提供の要素を含むギャング予防プログラムを厳密に評価することを要求することだけである。その評価研究によって将来の資金拠出と介入の輪郭を描くことができる。

研究のためのインプリケーション

上述のように、ギャング予防プログラム、特に機会提供に基づくギャング予防プログラムに関する良質の研究が不足していることに対処しなければならない。このレビューにおいて、無視できない方法論上の欠陥を抱え、結局は分析対象から外した二つの研究しか見つけられず、推測的な結論さえ出せなかったことは、研究が足りていないこと、また、非行少年・ギャング・良質の社会研究に対する国際的な注力が不十分であることを反映している。責任ある資金拠出を行うため、また若年ギャングへの関与、関連する犯罪や非行の減少を達成するために、このような研究の空洞化を是正しなければならない。機会提供が非行に与える影響力をさらに広範に調べるレビューは、おそらく価値のあるものになる。

謝辞

Jo Abbott（Cochrane Developmental, Psychosocial and Learning Problems GroupのTrial Search Coordinator）から、検索方策に関する助言を頂戴した。Jennifer Burton（Centre for Evidence-Based Intervention）から、編集と書式体裁に関する助言を頂戴した。

可能性としての利害対立

本レビューは、Nordic Campbell Centerの支援を受けている。本レビューの著者には、既知の利害対立はない。

除外した研究の特徴

研究	除外理由
Simun 1996	<p>割付：無作為割付ではなく、統制群も無い。</p> <p>参加者：カリフォルニア州ロサンゼルス市の6つの学校に通う9歳から13歳の高リスクの生徒。</p> <p>介入：プロジェクト・サポート。9つの介入段階のうちの1つとして機会提供（個別指導とコンピュータ実験室での指導）を実施。ただし、強度と期間に鑑みて、機会提供が主たる介入要素ではなかった。</p> <p>報告された結果：介入後、全生徒の態度にわずかな、有意でない改善が見られた。6校全体として、対人犯罪は15%減少、財産犯罪は43.5%減少。</p> <p>方法論上の制約：統制群が無かったことで、介入以外の要因、つまりサンプルの成熟や地域の犯罪水準の変化という要因がアウトカムに与える潜在的影響を評価することが出来ない。</p>
Weisfeld 1982	<p>割付：無作為割付ではない。質的なケース・スタディ。</p> <p>参加者：一人。元ストリートギャングのリーダー。</p> <p>介入：実施していない。</p> <p>報告された結果：参加者は、犯罪発生の経済的機会モデルあるいは分化的機会モデルを支持しており、多くの若者がギャングや犯罪への関与に魅せられるのは、彼らには合法的な仕事の利点が見えないためだと考えている。</p> <p>方法論上の制約：著者が報告した結果を支持するデータ（引用、証言）が提示されていない。データ収集と分析の方法についての議論も無い。著者と参加者の以前の関係が与える影響に関する相互作用性も無い。</p>

研究の参考文献

除外した研究の参考文献

Simun 1996 {published data only}

* Simun PB, Slovacek SP, Batie M, Simun M. Project Support Evaluation, Los Angeles Unified School District. Report No 3. Final Evaluation. Los Angeles: California State University, 1996.

Weisfeld 1982 {published data only}

* Weisfeld GE, Feldman R. A Former Street Gang Leader Reinterviewed Eight Years Later. *Crime and Delinquency* 1982;28(4):567-81.

*は、当該研究を知ることのできる主たる参考文献であることを意味する

その他の参考文献

追加の参考文献

Battin 1998

Battin SR, Hill KG, Abbott RD, Catalano RF, Hawkins JD. The contribution of gang membership to delinquency beyond delinquent friends. *Criminology* 1998;36(1):93-116.

Carlsson 2005

Carlsson Y, Decker SH. Gang and youth violence prevention and Intervention: Contrasting the Experience of the Scandinavian Welfare State with the United States. In: *European Street Gangs and Troublesome Youth Groups*. Lanham, MD: Alta Mira, 2005:259-286.

Connor 2002

Connor DF. *Aggression and antisocial behaviour in children and adolescents: Research and treatment*. New York: The Guilford Press, 2002.

Corsica 1993

Corsica JY. Employment training interventions. In: Goldstein AP and Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

Counsell 1994

Counsell C, Clarke M, Slattery J, Sandercock P. The miracle of DICE therapy for acute stroke: fact or fictional product of subgroup analysis? *BMJ Clinical Research* 1994;309(6970):1677-1681.

Covey 2003

Covey HC. *Street gangs throughout the world*. Springfield, IL: Charles C Thomas, 2003.

Dane 1998

Dane A, Schneider B. Program integrity in primary and early secondary prevention: Are implementation effects out of control? *Clinical Psychology Review* 1998;18:23-45.

Decker 2005

Decker SC, Weerman FM. *European street gangs and troublesome youth groups*. Lanham, MD: Alta Mira, 2005.

Deeks 2005

Deeks J, Macaskill P, Irwig L. The performance of tests of publication bias and other sample size effects in systematic review of diagnostic test accuracy was assessed. *Journal of Clinical Epidemiology* 2005;58(9):882-893.

Delgado 2004

Delgado-Rodriguez M, Llorca J. Bias. *Journal of Epidemiology and Community Health* 2004;58(8):635-641.

Dishion 1999

Dishion TJ, Capaldi DM, Yoerger K. Middle childhood antecedents to progressions in male adolescent substance use: An ecological analysis of risk and protection. *Journal of Adolescent Research* 1999;14(2):175-205.

Dishion 2005

Dishion TJ, Nelson SE, Yasui M. Predicting early adolescent gang involvement from middle school adaptation. *Journal of Clinical Child and Adolescent Psychology* 2005;34(1):62-73.

Egger 1997

Egger M, Davey Smith G, Schneider M, Minder, C. Bias in meta-analysis detected by a simple, graphical test. *BMJ Clinical Research* 1997;315(7109):629-634.

Egley 2000

Egley A Jr. Highlights of the 1999 National Youth Gang Survey. In: Fact Sheet. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2000.

Egley 2006

Egley A Jr, Howell JC, Major AK. National Youth Gang Survey 1999-2001. In: OJJDP Summary. Washington DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2006.

Esbensen 1999

Esbensen F-A, Osgood D. Gang Resistance Education and Training (GREAT): Results from the national evaluation. *Journal of Research in Crime and Delinquency* 1999;36(2):194-225.

Esbensen 2000

Esbensen F-A. Preventing adolescent gang involvement. Bulletin. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2000.

Esbensen 2005

Esbensen F-A, Weerman FM. Youth gangs and troublesome youth groups in the United States and the Netherlands; a cross-national comparison. *European Journal of Criminology* 2005;2(1):5-37.

Goldstein 1993

Goldstein AP. Gang intervention: A historical review. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign IL: Research Press, 1993.

Higgins 2002

Higgins J and Thompson S. Quantifying heterogeneity in a meta-analysis. *Statistics in Medicine* 2002;21(11):1539-1558.

Higgins 2003

Higgins J, Thompson S, Deeks J, Altman D. Measuring inconsistency in meta-analyses. *BMJ Clinical Research* 2003;327(7414):557-560.

Higgins 2005

Higgins J, Green S. Cochrane handbook for systematic reviews of interventions. The Cochrane library. 3 edition. Chichester, UK: John Wiley & Sons, Ltd., 2005.

Hill 1999

Hill KG, Howell JC, Hawkins JD, Battin-Pearson SR. Childhood risk factors for adolescent gang membership: Results from the Seattle Social Development Project. *Journal of Research in Crime and Delinquency* 1999;36(3):300-322.

Hill 2001

Hill KG, Lui C and Hawkins JD. Early precursors of gang membership: A study of Seattle youth. *Bulletin*. December edition. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2001.

Houston 1996

Houston J. What works: The search for excellence in gang intervention programs. *Journal of Gang Research* 1996;3(3):1-16.

Howell 1998

Howell, JC. Youth Gangs: An Overview. *Bulletin*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Programs, Office of Justice and Delinquency Prevention, 1998.

Huff 1993

Huff CR. Gangs in the United States. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

Huff 1998

Huff CR. Comparing the criminal behaviour of youth gangs and at-risk youths. In: *Research in brief*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs National Institute of Justice, 1998.

Juni 2001

Juni P, Altman DG, Egger M.. Systematic reviews in health care: Assessing the quality of controlled clinical trials. *BMJ Clinical Research* 2001;323(7303):42-46.

Klein 1995

Klien MW. *The American street gang: Its nature, prevalence, and control*. New York: Oxford University Press, 1995.

Klein 2006

Egley A Jr, Maxson CL, Miller J, Klein MW. Street gangs: A cross-national perspective. In: *The modern gang reader*. Los Angeles, CA: Roxbury Publishing Company, 2006.

Kodluboy 1993

Kodluboy DW, Evenrud LA. School-based interventions: Best practices and critical issues. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

Maxson 1998

Maxson CL, Whitlock ML, Klein MW. Vulnerability to street gang membership: Implications for practice. *Social Service Review* 1998;March:70-91.

Moher 1995

Moher D, Jadad AR, Nichol G, Penman M, Tugwell P, Walsh S. Assessing the quality of randomized controlled trials: An annotated bibliography of scales and checklists. *Controlled Clinical Trials* 1995;16(1):62-73.

Moher 1999

Moher D, Cook D, Eastwood S, Olkin, I, Rennie D, Stroup D. Improving the quality of reports of meta-analyses of randomised controlled trials: the QUOROM statement. *Lancet* 1999;354:1896-1900.

Montgomery 2005

Montgomery P, Gardner F, Operario D, Mayo-Wilson E, Tamayo S, Underhill K. In: *The Oxford Implementation Reporting Index: The development of an indicator of treatment fidelity in systematic review of psycho-social interventions* (poster). Melbourne: XIII Cochrane Colloquium, 2005 (October).

Moore 1998

Moore JP and Terrett CP. Highlights of the 1996 national youth gang survey. In: *Fact Sheet*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1998.

Moore 1999

Moore JP and Cook IL. Highlights of the 1998 National Youth Gang Survey. In: *Fact Sheet*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1999.

MRC 2000

MRC. *A framework for development and evaluation of RCTs for complex interventions to improve health*. London: Medical Research Council, 2000.

OJJDP 2004

OJJDP. *Gang Prevention. Model Programs Guide Version 2.5* 2004.

Oxman 1992

Oxman A and Guyatt G. A consumer's guide to sub-group analyses. *Annals of Internal Medicine* 1992;116(1):78-84.

Papachristos 2005

Papachristos AW. *Gang World. Foreign policy* 2005;147(Mar/Apr):48-55.

Snyder 2006

Snyder HN, Sickmund M. *Juvenile Offenders and Victims*. In: *2006 National Report*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 2006.

Spergel 1990

Spergel IA, Curry GD. Strategies and perceived agency Effectiveness in dealing with the youth gang problem. In: Huff CR, editor(s). *Gangs in America*. Newbury Park, CA: Sage Publications Inc, 1980:288-309.

Spergel 1991

Spergel IA. *Youth gangs: Problem and response*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1991.

Spergel 1993

Spergel IA , Curry GD. The national youth gang survey: A research and development process. In: Goldstein AP, Huff CR, editor(s). *The Gang Intervention Handbook*. Champaign, IL: Research Press, 1993.

Spergel 1994

Spergel I, Curry D, Chance R, Kane C, Ross R, Alexander A, Simmons E, Oh S. *Gang suppression and intervention: Problem and response. Research Summary*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Juvenile Justice and Delinquency Prevention, 1994.

Spergel 1997

Spergel IA and Grossman SF. The little village project: A community approach to the gang problem. *Social Work* 1997;42(5):456-70.

Sterne 2001

Sterne JA, Egger M. Funnel plots for detecting bias in meta-analysis: guidelines on choice of axis. *Journal of Clinical Epidemiology* 2001;54(10):1046-1055.

Stinchcomb 2002

Stinchcomb JB. Promising (and not-so-promising) gang prevention and intervention strategies: A comprehensive literature review. *Journal of Gang Research* 2002;10(1):27-46.

Thornberry 1997

Thornberry, TP, Burch JHI. *Gang members and delinquent behavior. Bulletin*. Washington, DC: US Department of Justice, Office of Justice Programs, Justice and Delinquency Prevention, 1997.

White 2002

White R. *School Strategies to Deal with Gangs; trends & issues in crime and criminal justice*. 6 edition. Canberra: Australian Institute of Criminology, 2002.

Yusuf 1991

Yusuf S, Wittes J, Probstfield J, Tyroler HA. Analysis and interpretation of treatment effects in subgroups of patients in randomised clinical trials. *JAMA* 1991;266(1):93-98.

付表

01 ASSIAの1987年から2007年を検索

ASSIA
<p>ASSIA, Applied Social Science Index & Abstracts (1987年～2007年)を、CSAを利用し、以下の用語について検索した。</p> <p>[[((young people) or adolescen* or child* or boy* or girl*) or KW=(youth* or adolescen* or juvenile* or child* or schoolchild* or boy* or girl* or teen*)] and [DE=(delinquen* or devian* or (juvenile crime) or (antisocial behavio*r) or gangs or (criminal gangs) or (street gangs) or (youth gangs)) or KW=(gang* or (youth within 3 group*) or delinquen* or devian* or anti*social)] and [DE=((vocational training) or (apprenticeships) or (industrial training) or (professional training) or (skills training) or mentoring or employment or (job creation) or tutor* or (remedial teaching) or (remedial education)) or KW=((opportunit* within 3 provi*) or (opportunit* within 3 enhanc*) or (remedial within 3 teaching) or (remedial within 3 education) or (supplementary within 3 teaching) or (occupation* within 3 training) or (occupation* within 3 placement) or (industr* within 3 training) or (supplementary within 3 education) or (tutor*) or (vocational within 3 training) or (vocational within 3 therapy) or (vocational within 3 education) or (job within 3 training) or (job within 3 placement) or (work within 3 training) or (work within 3 placement) or (work within 3 experience) or (apprentice*))]]</p>

02 CINAHLの1982年から2007年4月第4週を検索

CINAHL
<p>CINAHL, Cumulative Index to Nursing and Allied Health (1982年～2007年4月第4週)を、OVIDを利用し、以下の用語について検索した。</p> <p>[(adolescent/ or child/) or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile delinquency/ or Gangs/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [((opportunit\$ adj3 provi\$) or (opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3 teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or (supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3 educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3 train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3 educat\$) or (job adj3 train\$) or (job adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3 placement\$) or (work adj3 experience\$) or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3 placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or apprenticeship\$).tw. or (Education, Nonprofessional/ or Education, Non-Traditional/ or remedial teaching/ or Vocational Guidance/)]</p>

03 Criminal Justice Abstractsの1968年から2007年11月

CJA

CJA, Criminal Justice Abstracts, (1968年～2007年11月)を、CSAを利用し、以下の用語について検索した。

[(DE=juvenile) or (KW=(youth* or adolescen* or juvenile*) or KW=(child* or schoolchild* or boy*) or (girl* or teen* or young person* or young people*))] and [(DE=(juvenile delinquency) or (KW=(gang* or (youth* within 3 group*))) or (KW=(delinquen* or devian* or anti*social))] and [(DE=(vocational training) or (KW=((opportunit* within 3 provi*) or (opportunit* within 3 enhanc*))) or (KW=((remedial within 3 teach*) or (remedial within 3 educat*) or (supplementary within 3 teach*)) or KW=((supplementary within 3 educat*) or tutor*)) or ((vocational within 3 train*) or (vocational within 3 therap*) or (vocational within 3 educat*) or (job within 3 train*) or (job within 3 placement*) or (work within 3 train*) or (work within 3 placement*) or (work within 3 experience*) or (occupation* within 3 train*) or (occupation* within 3 placement*) or (industr* within 3 train*) or (apprenticeship*))]

04 Diss Abstracts 1861年から2007年4月

Diss Abstracts

Dissertation Abstracts International A: The Humanities and Social Sciences (1861年から2007年4月)を、以下の用語について検索した。

[youth? or adolescen? or juvenile? or child? or schoolchild? or boy? or girl? or teen? or (young person?) or (young people?)] and [delinquen? or devian? or anti-social or antisocial or gang? or (youth? W/15 group?)] and [(opportunit? W/15 enhanc?) or (opportunit? W/15 provi?) or (remedial W/15 teach?) or (remedial W/15 education) or (supplementary W/15 teach?) or (occupation? W/15 training) or (occupation? W/15 placement) OR (industr? W/15 training) or (supplementary W/15 education) OR (tutor?) OR (vocational W/15 training) or (vocational W/15 therapy) OR (vocational W/15 education) OR (job W/15 training) OR (job W/15 placement) OR (work W/15 training) OR (work W/15 placement) OR (apprenticeship?) or SU(Education, Early Childhood) or SU(Education, Industrial) or SU(Education, Special) or SU(Education, Vocational)]

05 EMBASE 1980年から2007年第17週までを検索

EMBASE
EMBASE (1980年から2007年第17週)を、OVIDを利用し、以下の用語について検索した。 [adolescent/ or juvenile/ or child/ or boy/ or girl/ or preschool child/ or school child/ or adolescence/ or childhood/ or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [delinquency/ or gang/ or juvenile delinquency/ or Antisocial Behavior/ or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [job finding/ or vocational education/ or vocational guidance/ or job experience/ or special education/ or remedial teaching/ or vocational guidance/ or education, professional/ or education, continuing/ or ((opportunit\$ adj3 provi\$) or (opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3 teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or (supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3 educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3 train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3 educat\$) or (job adj3 train\$) or (job adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3 placement\$) or (work adj3 experience\$) or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3 placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or apprenticeship\$).tw.]

06 ERIC (Educational Resources Information Center Unlimited) 1966年から2007年5月

ERIC
ERIC, Educational Resources Information Center (Unlimited, 1966年から2007年5月)をCSAを利用し、以下の用語について検索した。 [DE=(youth* or adolescen* or child* or (young adult*) or preadolescen* or (late adolescen*)) or KW=(youth* or adolescen* or juvenile* or child* or schoolchild* or boy* or girl* or teen* or (young person*) or (young people*))] and [DE=(delinqueny or (juvenile gangs)) or KW=(gang* or (youth within 3 group*) or delinquen* or devian* or anti*social)] and [DE=((career centers) or (employment services) or (employment opportunities) or (employment programs) or (job placement) or (job development) or (job skills) or (job training) or (youth opportunities) or (youth employment) or (vocational education) or (vocational training centers) or (apprenticeships) or (educational opportunities) or (occupational training) or (special education) or (experiential learning)) or KW=((opportunit* within 3 provi*) or (opportunit* within 3 enhanc*) or (remedial within 3 teaching) or (remedial within 3 education) or (supplementary within 3 teaching) or (occupation* within 3 training) or (occupation* within 3 placement) or (industr* within 3 training) or (supplementary within 3 education) or (tutor*) or (vocational within 3 training) or (vocational within 3 therapy) or (vocational within 3 education) or (job within 3 training) or (job within 3 placement) or (work within 3 training) or (work within 3 placement) or (work within 3 experience) or (apprentice*))]

07 IBSS (International Bibliography of the Social Sciences) 1951年から2007年4月

IBSS

IBSS, International Bibliography of the Social Sciences (1951 to April Week 04 2007) を OVIDを利用し、以下の用語について検索した。

[(youth or adolescents or adolescence or children).sh. or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [juvenile delinquency.sh. or gangs.sh. or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(education or (vocational education) or (vocational training) or (job placement) or (job search) or (job seekers) or (work experience) or (special education) or (apprenticeship) or (youth training scheme) or (youth employment)).sh. or ((opportunit\$ adj3 provi\$) or (opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3 teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or (supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3 educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3 train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3 educat\$) or (job adj3 train\$) or (job adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3 placement\$) or (work adj3 experience\$) or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3 placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or apprenticeship\$).tw.]

08 LexisNexis Butterworths Services, 2007年4月までの全ジャーナル

LexisNexis

LexisNexis Butterworths Services, 全ジャーナル(2007年4月まで)を以下の用語について検索した。

[(youth or adolescen! or juvenile or child! or schoolchild! or boy or girl or teen! or (young person!) or (young people!))] and [(gang! or (youth w/3 group) or delinquen! or devian! or antisocial or anti*social)] and [((opportunit! w/3 provi! or enhanc!) or (remedial w/3 teaching or education) or (supplementary w/3 teaching or education) or (tutor!) or (vocational w/3 training or therapy or education) or (job w/3 training or placement or service) or (work w/3 training or placement or experience) or (occupation! w/3 training or placement) or (industr! w/3 training) or apprentice!)]

09 LILACS (Latin American and Caribbean Health Services Literature) 2007年4月まで

LILACS

LILACS, Latin American and Caribbean Health Services Literature (2007年4月まで) をVHL
を利用し、以下の用語について検索した。

[youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or
(young person\$) or (young people\$) [Palavras] or "adolescent" or "child" [Descriptor de
assunto]] and [gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social
[Palavras] or "juvenile delinquency" [Descriptor de assunto] and [(opportunit\$ adj3 provi\$) or
(opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3 teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or
(supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3 educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3
train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3 educat\$) or (job adj3 train\$) or (job
adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3 placement\$) or (work adj3 experience\$)
or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3 placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or
apprenticeship\$ [Palavras] or "remedial teaching" or "vocational guidance" or "education,
professional" or "education, continuing" [Descriptor de assunto]]

10 MEDLINE 1950年から2007年4月までを検索

MEDLINE

MEDLINE (1950年から2007年4月第3週)をOVIDを利用し、以下の用語について検索し
た。

[(adolescent/ or child/) or (youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or
boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile
delinquency/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.]
and [(remedial teaching/ or vocational guidance/ or education, professional/ or education,
continuing/) or ((opportunit\$ adj3 provi\$) or (opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3
teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or (supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3
educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3 train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3
educat\$) or (job adj3 train\$) or (job adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3
placement\$) or (work adj3 experience\$) or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3
placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or apprenticeship\$).tw.]

11 National Criminal Justice Reference Service, Abstracts DB (2007年10月まで)

NCJR

National Criminal Justice Reference Service, Abstracts Database (2007年10月まで)を、以下の用語について検索した。 [(youth* OR adolescen* OR juvenile* or child* OR schoolchild* OR boy* OR girl* OR teen* OR (young people*) OR (young person*))] AND [(gang* OR delinquen* OR devian* OR anti*social OR (youth group* within 3))] AND [((opportunit* (provi* OR enhanc*) within 3) OR ((remedial OR supplementary) (teach* OR educat*) within 3) OR (vocational (train* OR therap* OR educat*) within 3) OR ((job OR work OR occupation*) (train* OR placement*) within 3) OR (tutor*) OR (apprenticeship*) OR (industr* train* within 3))]

12 PsycINFO (1806年から2007年4月第1週)

PsycINFO

PsycINFO (1806年から2007年4月第1週)を、OVIDを利用し、以下の用語について検索した。

[(youth\$ or adolescen\$ or juvenile\$ or child\$ or schoolchild\$ or boy\$ or girl\$ or teen\$ or (young person\$) or (young people\$)).tw.] and [(juvenile delinquency/ or juvenile gangs/ or antisocial behavior/ or predelinquent youth/) or (gang\$ or (youth\$ adj3 group\$) or delinquen\$ or devian\$ or anti?social).tw.] and [(occupational guidance/ or mentor/ or vocational education/ or school to work transition/ or nontraditional education/ or remedial education/ or special education/) or ((opportunit\$ adj3 provi\$) or (opportunit\$ adj3 enhanc\$) or (remedial adj3 teach\$) or (remedial adj3 educat\$) or (supplementary adj3 teach\$) or (supplementary adj3 educat\$) or tutor\$ or (vocational adj3 train\$) or (vocational adj3 therap\$) or (vocational adj3 educat\$) or (job adj3 train\$) or (job adj3 placement\$) or (work adj3 train\$) or (work adj3 placement\$) or (work adj3 experience\$) or (occupation\$ adj3 train\$) or (occupation\$ adj3 placement\$) or (industr\$ adj3 train\$) or apprenticeship\$).tw.]

13 Sociological Abstracts (開始から2007年)

Soc Abstracts

Sociological Abstracts (開始時から2007年)を、CSAを利用し、以下の用語について検索した。

[DE=(youth* or adolescen* or child* or (young adult*)) or KW=(youth* or adolescen* or juvenile* or child* or schoolchild* or boy* or girl* or teen* or (young person*) or (young people*))] and [DE=(gangs or (juvenile offenders) or (juvenile delinqueny)) or KW=(gang* or (youth within 3 group*) or delinquen* or devian* or anti*social)] and [DE=((job training) or (professional training) or (vocational education) or (special education) or (employability) or (work experience) or (work skills) or (occupational qualifications) or (youth employment)) or KW=((opportunit* within 3 provi*) or (opportunit* within 3 enhanc*) or (remedial within 3 teaching) or (remedial within 3 education) or (supplementary within 3 teaching) or (occupation* within 3 training) or (occupation* within 3 placement) or (industr* within 3 training) or (supplementary within 3 education) or (tutor*) or (vocational within 3 training) or (vocational within 3 therapy) or (vocational within 3 education) or (job within 3 training) or (job within 3 placement) or (work within 3 training) or (work within 3 placement) or (work within 3 experience) or (apprentice*))]

14 将来の更新で利用するために記録した、方法論に関する表

課題	方法
データ管理	<p>データ抽出を行うレビュー著者は、特別に構築したデータ抽出フォームを用いて個別にデータ抽出を行う。不可欠な統計が示されておらず、追加情報が必要な場合には、研究著者と連絡をとる。関連する情報を、研究の説明に含める。</p>
データ収集	<p>同一の試験において2つ以上の処遇選択肢がある場合、全ての処遇について記述する。以下のデータを、全ての試験処遇について収集する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 参加者の人口統計的データ（年齢、性別、民族、家族のギャング関与、これまでの犯罪記録）を含む記述データ 2) 介入の特徴（介入の提供の仕方、期間、設定、介入のばらつき、プログラムスタッフの人口統計データ） 3) その他提供された介入 4) 上記のアウトカム尺度。 <p>以下のデータを全ての研究について収集する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 群間の接触や重複、手順の変更、介入カリキュラムやプロトコルの使用、管理・提供した介入の実際の頻度と期間などのプログラムの変容（Dane 1998, Montgomery 2005, MRC 2000） 2) 背景
方法論の質	<p>両レビューワが個別に、Cochrane Handbook (Higgins 2005)に記載された方法論の質のカテゴリーに割り振る。カテゴリーへの当てはめについて最初に生じた食い違いが追加情報によって解決できるのであれば、研究著者と接触を持つ。また、同意に達しなければ、CDPLPGのReview Group Coordinatorに助言を求める。質のカテゴリーを判断する基準は、</p> <ol style="list-style-type: none"> (A) : 割付が適切に隠匿されたということが示されている（例えば、電話番号でのランダム割付や、連続した番号を振り密封した不透明の袋で包むなど） (B) : 割付が適切に隠匿されたかどうか不確実であることが示されている（例えば、隠匿方法が不明） (C) : 割付の隠匿が明らかに不適切であることが示されている（例えば乱数リストがオープンになっている、あるいは隔日、誕生日の奇数・偶数、ホスピタルナンバーなどによる準無作為化）。 <p>「B」（不透明）と「C」（不適切）と分類された研究については、ベースライン時点で存在していたと思われる介入群と統制群の違いを明らかにするために、処遇前の評価と参加者の割付を「研究の記述」に記入する。</p>

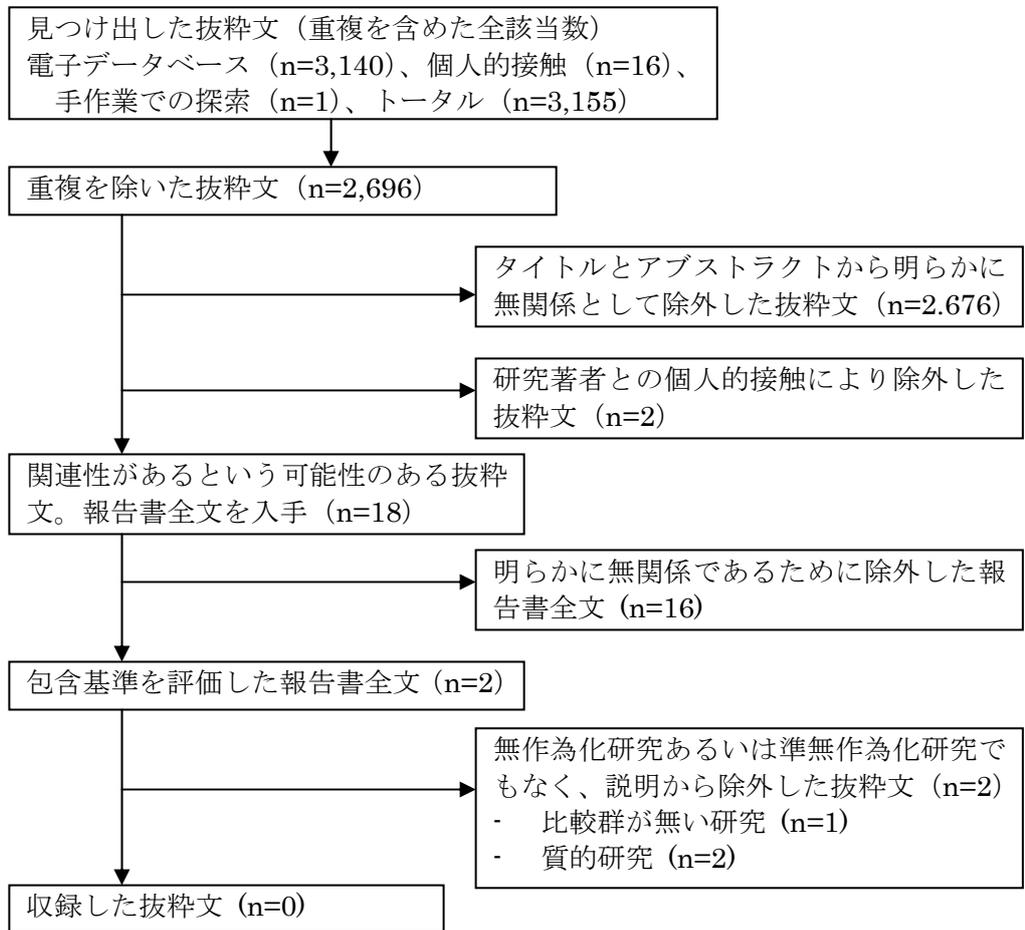
	<p>比較試験の質を測定するための既存の尺度は、適切に作成されておらず、きちんと正当化されてもおらず、系統的レビューでは試験の質について色々な（反対になることすらある）評定を与えることが分かっている（Moher 1995）。現在では、「ある系統的レビューにおいて明らかに質の低い試験あるいは質の高い試験を識別するためには、通常は、尺度を使うべきではない。むしろ、関連する方法論の部分を事前に見つけ出し、個別に評価すべきである」ことがエビデンスによって示されている（Juni 2001）。</p> <p>以下の要素は、「研究の説明」の中で論説の形で説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 割付バイアス（群への割付が、アウトカムや提供された介入と関係しているかどうか。割付方法が結果の大きさや方向に与える可能性のある影響に注意する） 2) パフォーマンス・バイアス（処遇群と統制群に与えた処遇について、研究対象である介入の他に系統的な差があったかどうか。介入の内容が、介入以外の何かしらから影響を受ける可能性があったかどうか） 3) 検出バイアス（アウトカムは、研究対象の概念以外に、評価のバイアスや検出での暴露の影響など、何かしらから影響を受けたかどうか） 4) 報告バイアス（アウトカム、尺度、分析は、事前に選ばれ、全て記載されているか。参加者に、思い出しや反応によるバイアスがかかっているか） 5) 脱落バイアス（欠損データや脱落など、プロトコルからの狂いが結果に影響を与えていないか）（Delgado 2004, Juni 2001） 6) アウトカムの妥当性（アウトカム尺度は客観的であるか。母集団にも妥当するか。介入の利用者によって直接報告されたものか、それとも公的な記録から得たものか）。
<p>複数の尺度</p>	<p>一つの研究で、ある一つのアウトカムについて複数の尺度が用意されている場合には、全ての尺度を報告する。例えば、ある研究に、生活の質（quality of life）について二つの尺度（同一の回答者から二つとも回答を受けているか、別の回答者からそれぞれの尺度について回答を受けているかのいずれか）があれば、その両方を報告する。あるアウトカム尺度をメタ分析のために統合する場合、複数の研究で統合可能な複数の尺度が報告されていれば、複数のメタ分析を行う。各研究から一つの効果推定値だけしか使えないときにメタ分析を行う場合、他よりも妥当性や信頼性の高い尺度を一つ選択する。例えば、あるひとりの回答者が、生活の質の複数の側面について評価</p>

	<p>する妥当性の高い尺度（validated scale）と、妥当性の低い視覚アナログ尺度（visual analogue scale）の両方の尺度を持っている場合、妥当性の高い方の尺度を選ぶ。研究において、妥当性が同等である複数の尺度が扱われており、メタ分析用に効果推定値を一つしか選べない場合、メタ分析のために平均効果を計算する（例えば、平均SMDや分散で重み付けしたRR）。</p>
複数の処遇	<p>分析対象としてふさわしい二つ以上の介入群が統制群と比較されている場合、すなわち、比較やメタ分析での利用のためにレビューワが介入群を一つだけ選ぶ必要がある場合、最も強度の強い介入か、個人的支援という目的に最も叶う介入（例えば、利用者への統制を強める介入）をメタ分析に使う。分析対象にふさわしい介入を行った一つの群を、複数の統制群と比較している場合には、比較とメタ分析での利用のために、他のどの統制群よりも「処遇無し」の群を選ぶ。「処遇無し」の条件がない研究では、結果の外的妥当性を最大にするために実際の現場で最も普及している介入を選ぶ。</p>
データ統合 (アウトカムデータ)	<p>研究間で比較可能なアウトカム尺度を結合するためにメタ分析を行う。全ての総合効果は、逆分散法（inverse variance methods）を使って計算する。研究ごとに少しずつ異なる処遇や対象者を扱っているため、ランダム効果モデルを用いる。</p>
連続データ	<p>連続量のアウトカム尺度を比較するため、平均偏差、標準化平均偏差（SMD）、95%信頼区間を算出する。</p>
二値データ	<p>二値のアウトカム尺度を比較するために、研究内の、相対リスク（RR）と95%信頼区間（CI）を算出する。二値のアウトカム尺度は、総合したRRと95%CIを計算することによって結合する。</p>
連続量のアウトカム	<p>平均と標準偏差、つまり有意性検定の全ての統計量が利用可能なときには、正規性を仮定する統計的検定が不適切でない限り、連続量のアウトカム尺度を統合できる。例えば、有限数（0など）で始まる尺度について、平均が標準偏差より大きくない限り（そうでなければ、平均は、分布の中心として適切な尺度にはなりにくい）、効果推定量は統合しない。連続量のアウトカムが研究間で完全に同じ方法で測定されていたら、総合した加重平均偏差（WMD）と95%信頼区間を計算する。同じ連続量のアウトカムが研究間で違う方法で測定されていたら、総合した標準化平均偏差（SMD）と95%信頼区間を計算する（Higgins 2005）。SMDはHedgeのgを使って計算する。</p>
分析の種類	<p>研究参加者がもともと割り付けられた群の構成員として分析されている研究（治療の意図に基づく分析（intention-to-treat analysis））、データを提供する意思がある、あるいは提供できる参加者のみを含む研究（利用可能なケースに基づく分析（available-case analysis））、研究の設計に忠実な参加者を分析する研究（プロトコルあたりの分析（per-protocol analysis））：Higgins 2005）は、別々に分析する。参加者を分析から除いた理由が、関連する論文や著者との接触によっても判断できない研究は、プロトコルあたりの分析として考える。</p>
均質性	<p>I二乗統計量（Higgins 2002; Higgins 2003）を利用して、研究結果の一貫性を評価する。結果が不均質だという根拠があれば（Q統計量pが0.1以下でI二乗統計量が25%以上）、著者は、統合した効果サイズの推定値を報告せずに、</p>

	<p>あらかじめ指定しておいたサブグループについての分析と感度分析（後述）に照らしてその原因を考える。サブグループ内でも結果が不均質なら、レビューでは、要約の中で試験ごとの結果を報告する。</p>
サブグループ分析	<p>サブグループが多いと誤った結論を出してしまうかもしれないため、サブグループは最小に留めるのが最善である（Counsell 1994; Oxman 1992; Yusuf 1991）。可能なら、本レビューでは、以下のサブグループ各々の効果の推定値を含める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事業組織 2) 住居の場所 3) インペアメントの獲得 4) 支援の量
バイアスの診断	<p>質の低い研究（すなわち割付が伏せられているかどうかに関してCあるいはDと評定された研究）がレビューの結果に与える影響を、感度分析によって調べる。出版バイアスなどのバイアスの可能性を調べるため、ファンネル・プロットを描く（Deeks 2005; Egger 1997; Sterne 2001）。グラフが非対称の場合には、レビューワがCochrane and Campbell Collaboration Methods Groupsなどの方法論者から、適切な分析について意見を求める。</p>
グラフ	<p>メタ分析を行ったら、「無効果」を意味するラインの左側のエリアが個人的支援を支持する結果であることを示すように、データをReyManに投入する。</p>

付図

図 01



見つけ出した全ての抜粋文から、機会提供プログラムの無作為化比較試験あるいは準無作為化比較試験として相応しいものを選択する過程

レビューワの連絡先の詳細

Ms Herrick Fisher Researcher The Centre for Evidence-Based Intervention University of Oxford Barnett House 32 Wellington Square Oxford UK OX1 2ER Telephone 1: 44 1865 280325 Facsimile: 44 1865 270324 E-mail: cricket.fisher@hertford.ox.ac.uk

Dr Frances Gardner University Lecturer Department of Social Policy and Social Work University of Oxford Barnett House 32 Wellington Square Oxford UK OX1 2ER Telephone 1: +44 1865 270325 E-mail: frances.gardner@socres.ox.ac.uk